

2015 7. vol.47

社会福祉法人

愛媛いのちの電話



1985年電話相談を開始し30年目を迎えました



キビタキ

撮影者：石川 清治

撮影場所：愛媛県総合運動公園 キャンプ場近く

ひとりぼっちで悩まないで……

CONTENTS

- ・開局30周年に寄せて
- ・応援しています いのちの電話
- ・平成26(2014)年度事業報告
- ・開局30周年記念行事のご案内

相談電話 **089-958-1111**

毎月1日～10日：昼12時～翌朝6時
11日以降：昼12時～午後10時

インターネット相談

<http://inochinodenwa-net.jp/>

※お受けできる相談の数には限りがありますので、ご了承ください。



愛媛いのちの電話 開局30周年に寄せて

社会福祉法人愛媛いのちの電話 初代理事長
柿本 泰男

「愛媛いのちの電話」があると知ったのは、その法人化準備委員会が立ち上がった頃のことです。遠山先生などが世話をしておられたのどかな雰囲気にかかれて参加したのが、平成15年頃でした。そこで「いのちの電話」があり、こんなに大切な仕事をしておられる方々が集まって活動を始められたと聞いて、力強く思ったことを思い出します。皆、ボランティアで、電話を聞くことを学び実践する仕事をしておられるのだ。きっと県内の「聞いてほしい」「ひとりぼっち」「どうして生きてゆけばいいのか」「話したい・さみしい」人達が沢山おられる。相談員の方々は「見知らぬ人々」「生活も職業も生いたちも知らない人々」「ヒストリーのわからない人々」「何故生きているのかわからない人々」「ただ話を聞いて欲しい人々」の電話を受けとり聞く。「事情も生活も知らない」「何故電話をしているのかもわからない」「何故生きているのか、死んではいけないのか」そんな人々と話を続ける。その中に人々は「自分は何故電話をしているのか」「自分の思いや事情を知ろうとしてくれる人が居るのだ」「自分はこんなにつらいのだ」「自分の気持や事情はこうなんだ」と自分の考え、事情に気づき始める。そして「このつらい気持」「困った事情」を少し冷静に受けとめるようになる。またこのつらい気持や事情をそのまま受けとめてくれる人、知ろうとする人の存在を感じる事が出来る。そこで生ずる心のゆとりで次の人生への歩みが始まる。そのような歩みを助けるのが相談員の方々のお仕事かと理解しはじめました。大変なお仕事、しかもボランティアですごいなあといつも感心し尊敬していました。

大阪大学ついで愛媛大学の医学部で65歳まで働き、その後15年位私は松山記念病院で働いて、今は東温市にある自宅で妻と二人暮らし、時折子供達の家族が遊びに来てくれます。市内の人々と囲碁をしたり、畑仕事です。あとは病院通いです。

今にして患者さんと医師との心の関係について思うことを少し書かせていただきます。今もかつての患者さんからお手紙を時々いただきます。「先生は私の話をよく聞いてくれました」とも言ってくれます。勿論その方はそうでも、駄目だったと思われた方は手紙は下さらないでしょう。「話のきいてくれない」「わかってくれない」「主治医をかえて欲しい」というお手紙もあります。「話を聞くか否か」は「聞くとはどういうことか」ということになります。私はその人の生活（過去-現在-未来、と人間関係の広がりの中での存在）にできるだけ深い関心をもって、その中で彼あるいは彼女を知ろうとする私の関心かなとも思います。そして知ったと思ったことを彼、彼女と話し合うことも「私は貴方を知りたいのだ」という気持を伝え、彼、彼女が自分のことを知る手助けになるのだと思います。

ある咄家の方との出会いです。もう40年以上の昔のことです。面接をたのまれました。私にはその人についての知識はなかったので、お会いする前に、「忙しいがそれを忘れて3時間はただお話を聞こう」とだけ覚悟しました。その時の思い出をその方から文章で（公開済）いただきました。

—— 先生はあの私の話を、えー、じっくりじっくり時間をかけて、始まりは、それからじっくり話を聞いてくださいました。それまでの先生方は「どうしたんですか？えっ？ア～ア～ア～ハイわかりました。じゃこの薬をのんどきなさい」というようなことでもございました。ああいう時には、こちらの神経が減に細くなっておりますので、ハイ、ワカリマシタで薬を飲もうという気は起らないものでございます。えー、そんな時に、本当に胸の内と申しますか、まあ頭の中と申しますか、えー、洗いざらい、えー申しましたのを聞いてくださいました。それがもう「大きな大きな安心、安堵、救い」でございます。やっと私のことを知ってくださるお方ができたということでもございます。これが大きいんでございます。もう、あの薄紙を剥ぐように良くなるという言葉はございますが、薄紙どころじゃございません。もうボー

ル紙が一枚べりっとはがれた気持でございました。――

以上、私の退官記念集にいただいた文章の一部です。私自身有難いことだと思っています。この方とのおつき合いはその後が続いたが、自殺されるという不幸な結末でした。

私は今は医者もやめて、妻との二人暮らしです。妻は失語症を患い会話はありませんが、50年以上つれ添うと別に不便もなく、おだやかな日をすごしています。ただ私は1年半位前から不眠、頭痛でつらい日が続いていました。大学病院で治療を受けています。今は電子カルテで、患者さんとの話などを書いていないのかも知れません。私の主治医はやさしく、よくできた人です。私は自分の生活や健康状態のことをよく話します。それを実によく理解してくれます。そのことは薬の処方や、検査の処方にも細々と反映されており、苦痛もやわらいできています。この方との気持の交流には満足していますが、「心の問題は言語を媒体として主として伝わる」。「人間と人間との」「言葉」を通しての交流しかないという事実は、今後の生活の中でどう変わってゆくのか、コンピュータ化される世界で少し不安である。「いのちの電話」でも「電子媒体化」の世界との関係でどうなったか、いつか教えてほしいものです。

30年間のいのちの電話のご活動おめでとうございませう。そして、いつまでも続くことを祈っています。



愛媛いのちの電話 開局30周年にあたり

社会福祉法人愛媛いのちの電話 前理事長
高木 総平

開局30年を迎えられたことを、心からお喜び申し上げます。

私は、1992年から愛媛いのちの電話に関わらせていただきました。その前は、京都いのちの電話の訓練委員でありました。スタートは、福岡いのちの電話の設立準備委員、一期生、事務局担当の評議員でした。松山に住むと、京都から連絡がいったようで声がかかりました。それまでの経験を用いることができたかと考え、加わらせていただきました。開局7年目でした。まだ設立当時の方々も多くいらっしゃいました。人間でいうと子ども時代です。事務局の場所も定まらず、手探りで動いていたように記憶しています。そして少しずつ、組織として、いろいろなことが整えられていきました。

30年というと、人間ではようやく青年期から大人へという年齢になりました。私自身、愛媛には約19年関わりました。ということは、7年目から26年目にかけて、人間では7歳から26歳まで、大人になるプロセスでした。いのちの電話、本来出会うはずのない多様な人たちの集まりです。そこにこのような団体の魅力であるのですが、時に思想や哲学の大きく違う方々がおられ、運営がぎくしゃくすることも生じました。今思うと、対応には、反省点が多々あるのですが、かなり混乱した時期がありました。電話の向こうのコーラーさんは、人間関係やこころの問題、家族の問題、病気や経済的な問題、社会の様々なしわ寄せから来る問題等々で悩み、苦しんでいます。相談員の皆さんは、いつも悩み、苦しみに、電話を通して向き合っています。私はその頃思いました。悩み、苦しみに向き合っているこのいのちの電話の組織自体が、悩み、苦しみの中にあることは、あっていいことではないか、まして人間でいうなら、荒れる思春期、青年期ではないか、このいのちの電話が大人になる重要な時ではないか、そう受け止めていました。その時の事情で辞退した全国大会を2006年に開催することができました。苦しみの向こうの大きな喜びでした。

こうやって思い起こすと、いろいろなことが心に浮かんできます。事務局長の任に当たってくださった方々、会長、理事長として苦しい時代、そして立て直しの時代を担ってくださった遠山順一先生、柿本泰男先生、そして何より相談員として電話を取り続けて来られ、加えて様々な活動を担って来られた相談員の皆さんの働きです。また後援会を立ち上げ、お支えいただいた方々にも支えられてきました。

今、京都の研修（訓練）委員としてグループの研修中心に関わっています。私自身、愛媛で培われたことが多々あると、スーパーヴィジョンの中で実感しています。また多少それぞれのセンターで特色があるとはいえ、同じような課題や悩みがあることも毎回痛感させられています。

福岡で、はじめて電話を取ったとき、電話線の向こうに大きな闇が広がっていると感じたものでした。心の闇、社会の闇からの叫びを聴く時、そこに小さな働きですが、光を灯すことができるのだと思います。30歳を迎え、また新たな課題や問題に取り組まなければならないでしょう。これからも愛媛の地で光を灯し続けることを願っています。



30周年を迎えるにあたり

社会福祉法人愛媛いのちの電話 評議員

訓練委員 青野 篤子

人間の30歳は、青春真っ盛りといったところ。確かに、法人化の歩みを経て、一つの組織として形が整い、活動もようやく軌道にのってきたと言えるだろう。この30年の間に、どれほどの人がかかわってきたことだろう。その一人一人の働きがあればこそ、愛媛いのちの電話の今日がある。そう思うと感慨ひとしおである。

私自身は、ゼロ期生として、同じ訓練委員の平林さんたちとともに、愛媛いのちの電話の開設にかかわってきた。6畳一間に電話一台の相談室からの出発は、いわばすべてが「手作り」であり、相談を受けながら自前で必要な研修などを行っていた。皆が同じ立場でかかわり、皆で考え、皆で体験を共有していた。

当時は、いのちの電話というものへの物珍しさも手伝い、いわゆる「性の相談」がとて多かったという記憶がある。私たちはひたすら耳を傾け、心をかき乱されもした。いわゆる「リピーター」の作話まがいの電話にいかに対応するか、については今も正解はないと思われる。女性相談員をターゲットにかけ続けるコーラーの行為は一種のハラスメント（いやがらせ）とみなすこともできようが、やはりそこには、電話をせざるを得ない困惑した状況が背景にあると推測される。

おそらく、相談員になられた方ならどなたもこの種の電話で「洗礼を受ける」ことになるのだが、今なら、それこそ先輩相談員、サポーター、訓練委員と、相談できる人がたくさんいる。また、マニュアルや指針もあるだろう。今、相談員は、組織によってとても守られた状態にあると言えるかもしれない。

しかし、組織はいったんできあがると硬直化する危険性をはらんでいる。一人一人の役割が明確になるのだが、そこに「もたれあい」や「なれあい」というものが生じてくる場合がある。私は相談員から訓練委員（当初は専門委員と呼ばれた）になった人間であるが、実はたいへんおこがましいと思っている。心理学を少し知っているからと言って訓練委員になる資格が本当にあるだろうか？自問自答する。

「こころの専門家」はいない、と私は思っている。それは、一人一人がこころをもち、その主人公だからである。心理学者が専門家だとすれば、それは最大公約数としての人の心を知っているからであろう。でも、一人の心を前にして、本当にその人に寄り添い、その人を理解することにおいて、心理学者が得意だとは思わない。いのちの電話で必要とされるのは、「今・ここ」にいるコーラーに寄り添い、耳を傾ける「良き隣人」なのである。

その意味で、相談員が組織の中核を占めるようにならなければいけないと思う。30周年の節目に当たり、いのちの電話の趣旨に立ち戻り、コーラーにとっての「良き隣人」とするとともに、愛媛いのちの電話にかかわる人たちがお互いに「良き隣人」となれるような組織をめざしてみたらどうだろうか。そういえば、エリクソンは青年期の次にくる成人期の課題を「親密性」の獲得だとしている。

研修サポーターの声

10期生としてこの活動を始め、いのちの電話と共に人生を歩んできたといっても過言ではない私です。

相談電話を受ける中で、不平等の根源を突き止めたくて、通信制大学で学び直し、縁があり、現在の仕事に繋がりました。固く閉ざされた心の殻を破り、本当の幸せとは何かを知ることができました。

これもひとえに、苦悩を共有したコーラーの皆さん、志を同じくする仲間たち、背中で語る訓練委員の先生方、いのちの電話で出会った全ての方々のお陰だと感謝しています。

(K・O)

「研修サポーター養成」の話に手を挙げてはや19年になります。相談員になって初めて一人で相談室に入ったあの時の心細さが忘れられず、あとに続く方たちに何かのフォローができればと思って取り組んだこの19年間でした。

同時に研修を受けた数人の仲間との深い繋がりは、その後の私の活動に於いていつも支えとなり、励みとなり今があります。この疲弊した世の中でひっそりと、深く強く根を張っているこの活動に、今日まで関わられたことは、ずっと育て見守って下さった皆さんに感謝でいっぱいです。

(I・M)

糸井重里さんのことばに「自分の中での問答というものだけがその人を育てる」というのがあります。「こうなりたい、こうありたいという理想の自分と自分とのあいだに差があって、それを、『できなかった。どうしたらいいだろう。もっとこうしよう』と思うその時間が、唯一自分を育てる」と続きます。「いのちの電話」は掛け手との対話を通じて「自分の中での問答」を重ねていく場所、これがあるから活動が長く続いていくのだと思うのです。おめでとう、30年。「歩み続けて30年 ～これまでも これからも～」

(K・K)

否定されることなく安心して想いを語れるいのちの電話。相談室の電話のベルは鳴り止むことがありません。組織としては法人化され後援会もでき、社会的にも名前を知られる存在となりました。その歩みを振り返る時、この活動にかかわった人々の温かさ強い使命感を思い出します。その思いと努力は受け継がれ、今があります。これからも先も、同じ想いを受け継ぐ人々によって、この活動が明日へと繋がってゆくことを信じている私です。

(J・M)

先輩相談員さんが歩まれた「共に生きて行きましょう」の道りを私も歩みだし、様々な出会いがありました。辛い現実には納得いかず苦しい思いを語られるコーラーさんに、聴かせて下さい。ひと時、共に歩きましょう。そっと心を寄せ耳を傾けます。時にすくみ混乱しても、苦しい自分の思いを語られる内なる勇気と力を感じ、今は立ち止まっても、又一步踏み出す時を思います。出会う事で共に成長してゆける場になる活動だと思っています。

(Y・J)

養成講座での先輩方の働きぶりに圧倒されながら、研修をスタートしたころのことを思い出します。今でも体験学習は緊張の連続ですが、受講生のみなさんの成長に伴走させていただけるのは、大きな喜びです。電話の掛け手だけでなく相談員の方たちとの出会いの中に確かな手応えを感じている私です。

(K・N)



応援しています

社会福祉法人愛媛いのちの電話 監事
近藤税理士事務所 近藤 猛

いのちの電話の活動をされている方に、「相談員は、相談者の話をただひたすら聞いてあげなければならない」しかしその過程で「そうではないだろう、その考え方は間違っている、という思いがムクムクと湧き上がってくることもある。その時初めて、自分の持っている考え方や価値観がはっきりとわかってくる。そういうことがあるからこの大変な奉仕活動ができる」という話を聞いて非常に感銘を受けました。

いのちの電話にかかわらせていただき、本当に社会奉仕活動の模範だ、利他業そのものだと思います。相談員になるには私費で講習を受け、相談委員になってからは無報酬でシフトに入り電話相談にあたる。当初は「何故、相談員の方々はここまでできるのだろうか？」と疑問に思っていました。当然、「人の命を救いたい」という崇高な使命感でされているのであろうが、その大変な奉仕活動の中で、自分に得られるものがあることも、活動を続けられる、モチベーションの一つになっているのだろうと納得いたしました。

平成26年の自殺者は25,427人で14年連続して3万人を超えていたのが、ここ3年連続で3万人を下回ったとのこと。それにしても大変な数の自殺者です。尊い命というものを、自ら断たなければならないことほど、辛く悲しいことはないと思います。

私が尊敬する京セラやKDDIの創業者である

稲盛和夫氏は、「この世の中、自然というものは、もともとすべての人々が素晴らしい人生を生きていけるように作られている。本来、この世の中に不幸な人などいないはずである。いてはならないはずである。そういうふうに自然は作ってくれている。」と言われていました。同時に、「人生とはドラマであり、それを演じる主役は自分であり、みんな自分の思った通りに、人生というドラマを演じることができます。」とも言われています。私もそうなんだろうと思います。

それでも、人生を生きていくうえでは、嬉しいこと、楽しいことばかりではなく、辛いこと、苦しいこと、悲しいことも数多くあります。心が折れそうになることもあると思います。そんな時に、「相手の気持ちに寄り添い、ただひたすら話を聞いてあげる」いのちの電話の存在は、人間が持つ美しい心の象徴であり、その名の通り最後の砦と言えるでしょう。

先ほども述べましたが、いのちの電話の活動は利他業そのものです。利他という行為は人間の持つ、最高の行為だと思います。「いのちの電話」の奉仕活動に従事されている皆様には、心より敬意を表します。私も「いのちの電話」にかかわらせていただくことに、自分なりに使命感を感じています。今後も、微力ではありますが、皆様のお役にたてるよう、努力をしなければと思っております。

..... 寄付金の税制優遇措置について

「愛媛いのちの電話」へのご寄付は、寄付金控除の対象となります。

- * 個人によるご寄付の場合、所得税や住民税について税法上の寄付金控除を受けることができます。確定申告書に当法人の交付した領収書を添付することにより、「所得控除」または「税額控除」を受けることができます。
- * 法人によるご寄付の場合、当法人への寄付金は、損金算入限度額の範囲内で損金算入をすることができます。
- * 相続または遺贈により財産を取得した方が、取得した財産を相続税の申告期限内に当法人へご寄付された場合は、控除の対象となります。



あたたかいご支援 ありがとうございます

2014年11月1日～2015年4月30日までに、次の方々から社会福祉法人愛媛いのちの電話への寄付または愛媛いのちの電話後援会への会費としてご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。今後ともご指導、ご協力をお願い申し上げます。(五十音順・敬称略)

個人	秋月 千代	東 麗子	足立 純一	安倍 正子	新玉 真美	有光千恵子	井口 美栄
	イシカワタカオ	石川 和史	一ノ宮孝司	井野 恵子	井上美奈子	今井久美子	岩瀬ヤスミ
印南扶美恵	大久保雅代	大谷 久子	大野美代子	岡野 鏡子	沖中 正明	沖元てるよ	奥村 武久
小倉 正	尾崎 富江	越智真理子	越智 京子	越智 通晴	越智 操	折戸 順子	恩地 森一
加藤 泰三	金岡 潔宗	川井由紀子	川崎 佳子	川崎 由美	菅 温子	菊池 伸英	木綱 俊三
木村すみれ	木村ツヤ子	木村多恵子	国田 敦彦	久保スミ子	久保ヒロ子	栗田 啓	桑田 敬子
桑田佳代子	河野 浩	薦田 道子	五葉 明德	五領田真理子	近藤 猛	重松 章子	清水 正子
城賀本早智子	城 民枝	甚野より子	鈴木 公生	須之内淳二	関家 徳美	高内美代子	高木 総平
高木 秀子	高須賀久仁子	高瀬 圭子	高田 洋子	高田 義之	高野 順子	高橋 良子	滝澤久海子
武井 義定	武井 建治	竹下 裕子	竹中真由美	立川 百恵	田中 恭子	田中 稚子	谷口 好美
谷本 治	玉井 正子	田村由美子	垂水 真人	鶴井 善子	遠山 順一	戸梶 元斎	徳増紀久子
俊成 薫	戸田 佳乃	豊島千津枝	永井 和美	中島真智子	中條 泰行	中村 臣子	中矢 佳男
名智 咲子	西岡美矢子	西川ゆかり	西澤 孝一	西原 透	西原 康雄	西村 紀子	西本 腫
野口理英子	野村 和男	野村 実	畑中企仁子	羽藤 節子	原 敏彦	兵頭 早苗	平林 茂代
廣瀬 孝子	広瀬 香織	廣瀬 一郎	福岡 幸子	福原 千佳	藤木 信一	藤田純一郎	藤本 理恵
星加 修	牧 昌司	松浦 秀二	松崎 純子	松田久美子	松村 茂	松本 郁枝	松本 伸郎
丸山 正治	三神 弘子	三木 優子	三木 茂円	水田 恒二	宮崎 節子	宮本 幸	村上 広子
村瀬 宏之	本 裕美	森 秀人	森 祐子	森岡 仁子	森實 京子	薬師神寛司	山形 久子
山本千延子	遊口 親之	遊口百合子	横山 真一	芳野 恭子	鷹尾 雅裕	渡部茂由子	渡部 一彦
匿名 2名							

団体	(株)アイビ広告	安藤工業(株)	(株)一色本店	NTT労組退職者の会	愛媛建物(株)	扇屋食品(株)
	越智昇鉄工(株)	おりひめ友禅(株)	(医)かざはやくリニック	(医)かとう歯科	デイサービスセンターきらり	(株)門屋組
	(株)カネシロ	(医)愛媛インプラントクリニックかまくら歯科	(株)関西建物	桑原運輸(株)	日本基督教団西条栄光教会	
	(医)十全会十全第二病院	(財)正光会宇和島病院	(財)正光会御荘病院	日蓮宗 瑞応寺	(財)創精会松山記念病院	
	大一ガス(株)	(有)タカウチスタジオ	日本キリスト教団丹原教会	(株)テクニカル	常盤タクシー(株)	
	日本キリスト教団砥部教会	新居浜商工会議所女性会	(医)西田歯科医院	日東石材工業(株)	伯方造船(株)	
	富晴産業(株)	(医)ふくもと心療内科	(株)母恵夢本舗	日本キリスト教団松山教会	日本基督教団松山栄光教会	
	(株)松山建装社	日本基督教団松山古町教会	(財)松山済美会	松山東雲女子大学・短期大学キリスト教センター		
	(医)丸尾歯科	日本基督教団三島真光教会	(株)ヤツツカ	(株)ヤマキ建設	(有)大和屋本店旅館	ルナ物産(株)

商品提供 イオン松山店 マックスバリュ今治阿方店

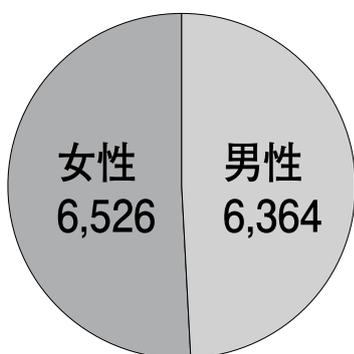
電話相談受信状況 (2014年1月1日～2014年12月31日)

- 1、受信時間 1日～10日 12時～翌朝6時
 11日～月末 12時～22時
- 2、相談員 84名 (実働77名)
- 3、受信件数 12,890件
 そのうち自殺志向のある相談
 1,021件 (7.9%)

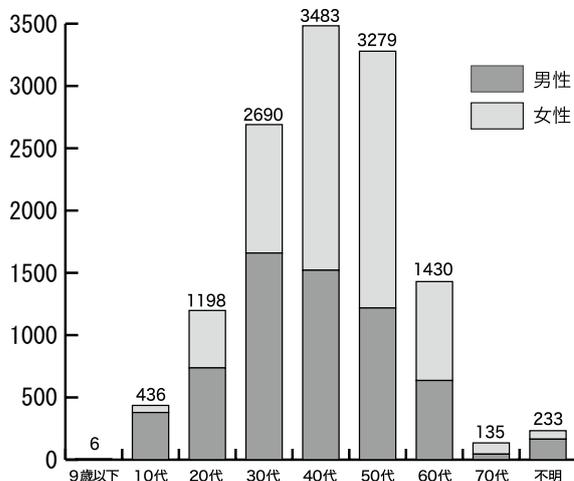
▼ 年間相談件数

	相談件数	月平均相談数	1日平均相談数
2014年	12,890	1,074.2	35.3
2013年	12,527	1,043.9	34.3
2012年	10,887	907.3	29.8
2011年	11,265	938.8	30.9
2010年	10,336	861.3	28.3

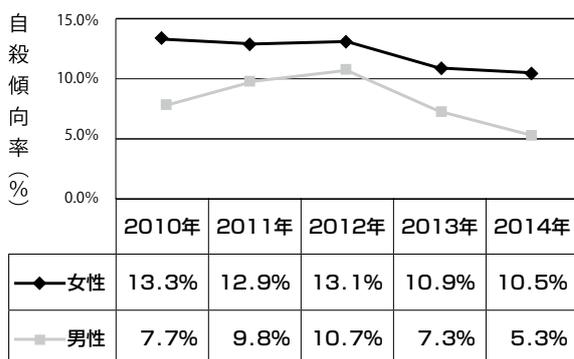
▼ 男女別相談件数



▼ 年代別相談件数



▼ 男女別自殺傾向率



自殺傾向率=自殺を訴えた相談件数 / 全相談件数

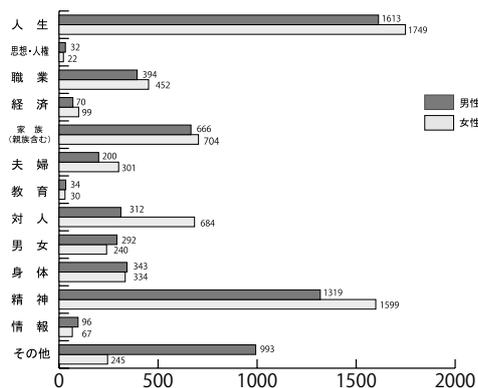
▼ 年代別相談者内訳

	男性	女性	計
9歳以下	4	2	6
10代	379	57	436
20代	737	461	1,198
30代	1,659	1,031	2,690
40代	1,521	1,962	3,483
50代	1,218	2,061	3,279
60代	636	794	1,430
70代	45	90	135
不明	165	68	233
合計	6,364	6,526	12,890

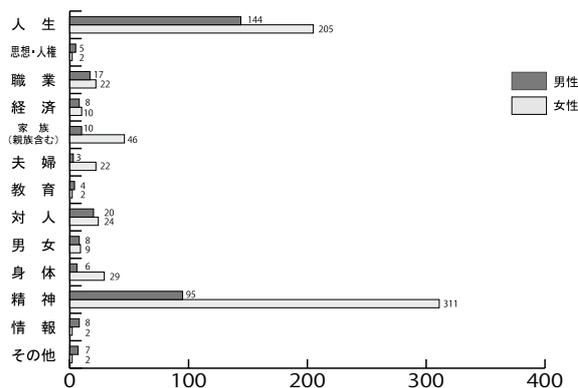
『イオンイエローレシート キャンペーン』

毎月11日にイオン松山店で実施されている『イエローレシートキャンペーン』は、イオンさんと店に買い物に来られたお客さまのご好意で、集めたレシートの合計金額の1パーセントがボランティア団体に寄贈されるという、活動資金難のボランティア団体にとってはとてもありがたい催しです。現在イオン松山店では約30団体が登録をして、毎月11日にはイオン松山店に立ってお客さまにご協力をお願いしています。

▼ 問題内容別相談件数



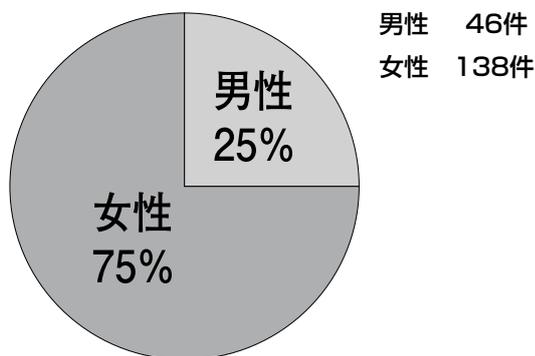
▼ 自殺を訴えた相談内容



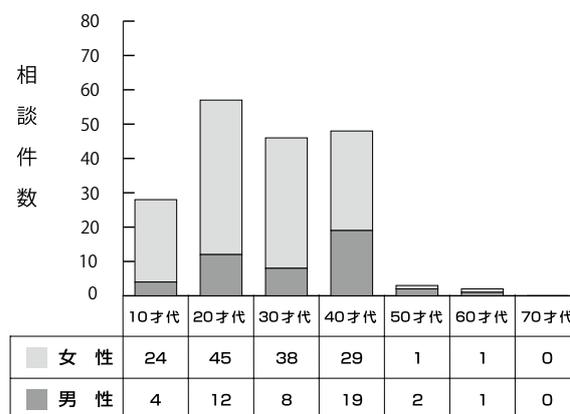
インターネット相談実施状況 (2014年4月1日～2015年3月31日)

- 1、実施日 合計24日 (1月に2日)
- 2、担当相談員 18名
- 3、受信件数 184件
自殺志向のある相談 88件 48.0%

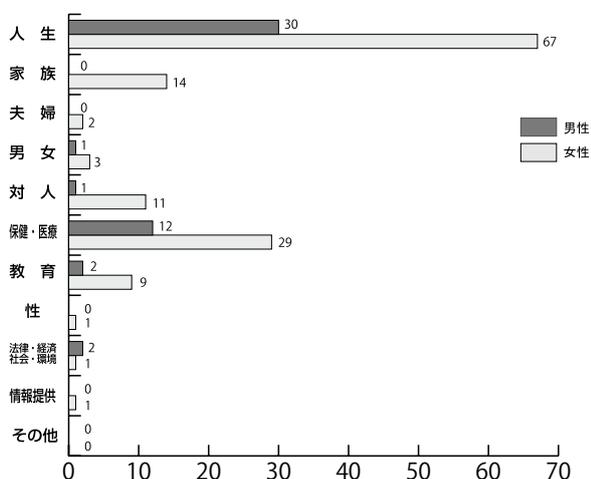
▼ 男女別相談件数



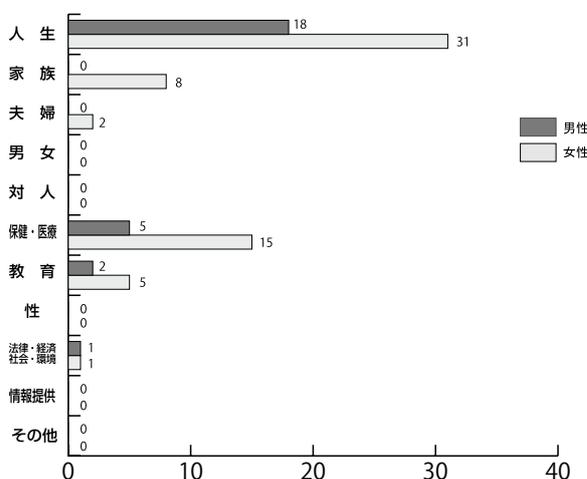
▼ 年代別相談件数



▼ 問題別相談件数



▼ 自殺を訴えた問題別相談件数



事業報告

平成26(2014)年度 事業報告 (2014年4月1日～2015年3月31日)

1、理事会・評議員会の開催

- 5月15日 評議員会および理事会
平成25(2013)年度、事業報告、決算報告
平成26(2014)年度第一次補正予算
理事、評議員の選任、30周年記念行事
- 6月6日 理事会
理事長、副理事長の選任
理事長、副理事長を代理する理事の指名
- 12月1日 理事会
平成26(2014)年度上半期事業報告、会計報告
開局30周年記念行事について
- 3月18日 評議員会および理事会
平成26(2014)年度補正予算
平成27(2015)年度事業計画、予算について

- 7月5日 終了 終了者：29名
- 7月26日 後期受講希望者 面接：21名
- 8月30日 養成講座後期開講 受講者：21名
- 9月6日～9月7日 宿泊研修
- 3月7日 修了式 修了者：20名

(2) 現相談員の研修

- ① グループ継続研修 (毎月1回)
継続グループ数 8グループ
(1年目のわかば、2年目の青葉を含む)
訓練委員 6名
大久保雅代、安藤浩範、武井義定、
名智咲子、平林茂代、横田和子
- ② 相談員全体研修 12月20日「コーラー理解のために」
担当：矢永由里子先生(東京いのちの電話)

(3) ネット相談員 継続研修

- ① コーディネータ継続研修
7月12日 担当：野口理英子、横田和子
- ② 相談員継続研修
スキルアップ研修
12月19日 担当：矢永由里子(東京)
研修パック 9月27日・10月21日・12月20日・3月28日
- ③ ネット相談員エリア研修会(福岡) 2月8日 参加4名

2、電話相談事業

- (1) 受信時間
相談時間10時間(毎日12時～22時)
月初め10日間は(12時～翌朝6時)
電話2台 受付番号 089-958-1111
- (2) 相談員
2014年4月1日現在
登録相談員 84名(男20名、女64名)
実働相談員 77名(男20名、女57名)
実習 7名(男1名、女6名)
平成25(2013)年度 1000時間達成者 9名
- (3) 受信件数(2014年1月から12月)
相談件数：12,890件(1日平均35.3件)
そのうち自殺傾向のある電話：1,021件 7.9%
- ※参考(2013年1月から12月)
相談件数：12,527件(1日平均34.3件)
そのうち自殺傾向のある電話：1,155件 9.2%
- (4) 転送受信(新居浜)
毎月3回 受信件数1,370件(1日平均38.1件)
- (5) インターネット相談
毎月2回の実施 相談員数：18名
返信数：184件(4月～3月)
そのうち自殺傾向のある相談：88件 48.0%

3、電話相談員の養成と研修

- (1) 電話相談員養成講座
第33期 4月から9月まで7名が実習、4名認定
10月9日 認定証 授与式
第34期
5月10日 前期公開講座開講 受講者：35名

4、委員会活動

- 研修企画委員会 各研修会、来年度の養成講座の企画と検討、相談員の認定
- 相談委員会 相談室内の問題点等を検討
相談員全体会開催 11月22日 44名参加
- 広報委員会 外報誌「愛媛いのちの電話」45号
(事業報告を含む)46号を発行
- 財務委員会 イオンデー：毎月11日、黄色いレシート
キャンペーンに参加
松山店・マックスバリュ西日本合計72,300円
外報誌を後援会会員に郵送
- 事業委員会 NPO法人パステルクラブ内心身障害者
作業所パステル工房のクッキー販売
収益：2,000円
相談室内のバザー売上：26,018円
- 統計委員会 通常の相談電話とフリーダイヤルの統計処理
連盟への報告
- 運営会議 各会議、委員会、事務局の連絡、報告
事業の計画・実施について討議
- 30周年記念行事実行委員会
(4/14、6/9、8/4、9/18、以後毎月開催)
開局30周年記念誌の発行準備



開局30年記念式典 懇親会の計画

- 事務局 内報誌「なかま」の発行 毎月1回
助成金の申請、報告等
 - ① 愛媛県精神保健福祉協会
「愛媛県精神保健福祉思想普及事業費補助金」
 - ② 平成26年度愛媛県三浦保愛基金
社会福祉分野に申請 「インターネット相談」
 - ③ 平成27年度愛媛県三浦保愛基金
社会福祉分野に申請 3月20日
「30周年記念事業 夏井いつきの句会ライブ」
 - ④ 日本郵便㈱ 2015(平成27) 年度年賀寄付金配分
申請11月4日 不採択3月30日
「インターネット相談活動の拡充」
- その他 事務全般

5、平成26年度愛媛県自殺予防緊急対策委託事業

「継続研修の拡充」 5月16日採択

6、全国のセンター、連盟との連携

- (1) 厚生労働省補助事業
 - フリーダイヤル自殺予防いのちの電話
毎月10日午前8時から11日午前8時まで
受信件数：635件（1日平均52.9件）
そのうち自殺傾向のある電話：176件 27.7%
 - 公開講演会 4月19日(土) 14：00～16：00
講師：清水真砂子氏「半音のない世界で」
愛媛県総合社会福祉会館 多目的ホール
参加：120名
- (2) 日本いのちの電話連盟の会合
 - 6月5日 一般社団法人日本いのちの電話連盟
定期総会（東京） 理事長 出席
 - 7月1～3日 全国事務局長会議（東京）
事務局長 出席
 - 9月13日 自殺予防シンポジウム北九州大会
事務局員 1名出席
- (3) インターネット相談実施7センターの会合
 - 11月30日、12月1日 実施センター会議
訓練委員 1名 相談員1名出席
 - 2月21日 スーパーバイザー会議 訓練委員出席
- (4) 第2回中国・四国いのちの電話事務局会議（岡山）
6月18日～19日 事務局員1名出席
- (5) 第32回全国相談員研修会ぐんま大会
11月15～17日 参加：5名
- (6) 日本電話相談学会 中国四国地区 地区別研修会
（岡山いのちの電話 共催）「電話相談による危機介入」
2月21日 参加：4名

7、愛媛県諸機関その他との連携

- (1) 愛媛県被害者支援連絡協議会
幹事会 7月17日、定例会 9月18日
- (2) 愛媛県自殺予防対策連絡協議会 8月19日
- (3) 愛媛県三浦保愛基金 「インターネット相談」
- (4) 愛媛県教育委員会「いじめ相談ダイヤル24」への協力
- (5) 愛媛県教育委員会主催 共済組合員退職準備セミナー
いのちの電話のボランティアの紹介 2月2日～6日
- (6) 松山市 自殺予防週間 啓発活動協力 9月10日
松山市駅・大街道入口にてティッシュペーパー配布
- (7) 松山市自殺対策推進委員会
4/24、8/7、10/9、1/29
松山市自殺対策基本計画の策定
- (8) 松山市自殺対策関連機関連絡会 3月24日
- (9) 松山市「生きる応援フォーラム2014」 10月26日
パネル展示
- (10) 松山市福祉大会 9月3日 松山市長表彰
地域福祉功労団体 副理事長 出席
- (11) NPO法人こころ塾によるラジオ番組
（平成26年度愛媛県自殺予防緊急対策委託事業として）
自殺防止を考える 「明日への伝言版」
12月2日、9日、16日、23日 出演 理事長
- (12) 愛媛県司法書士会によるシンポジウム 3月8日
「地域で支えるいのち、いま私たちができること」
（平成26年度愛媛県自殺予防緊急対策委託事業として）
映画「カミハテ商店」上映とパネルディスカッション
パネリストとして理事長登壇

平成26(2014) 年度 役員

理事長	武井 義定			
副理事長	谷本 治			
理事	安藤 浩範	大久保雅代	奥村 武久	
	越智眞理子	草薙 順一	中山 淳	
	平林 茂代	森 秀人		以上10名
監事	近藤 猛	星加 修		以上2名
評議員	青野 篤子	足立 純一	安藤 浩範	
	石丸 裕司	大久保雅代	奥村 武久	
	越智眞理子	川崎 佳子	草薙 順一	
	武井 義定	谷本 治	中矢 吉男	
	中山 淳	西澤 孝一	原 敏彦	
	平林 茂代	廣瀬 一郎	広瀬 満和	
	森 秀人	横田 和子	渡部 三郎	以上21名

事業報告

平成26(2014)年度 決算報告

2014年度 事業活動計算書

(2014年4月1日～
2015年3月31日)

勘定科目		2014年度決算
サービス活動増減の部	収益	
	その他の事業収益	1,036,000
	その他の収益	426,000
	経常経費寄附金収益	4,718,441
	サービス活動収益計(1)	6,180,441
	費用	
	人件費	2,800,785
	事業費	1,441,813
	事務費	1,396,698
	減価償却費	556,883
サービス活動費用計(2)	6,196,179	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	▲15,738	
サービス活動外増減の部	収益	
	受取利息配当金収益	4,070
	その他のサービス活動外収益	1,467,937
	サービス活動外収益計(4)	1,472,007
費用		
サービス活動外費用計(5)		
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	1,472,007	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	1,456,269	
特別増減の部	収益	
	特別収益計(8)	
	費用	
特別費用計(9)		
特別増減差額(10)=(8)-(9)		
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	1,456,269	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	8,959,270
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	10,415,539
	基本金取崩額(14)	
	その他の積立金取崩額(15)	
	その他の積立金積立額(16)	1,000,000
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	9,415,539

2014年度 資金収支計算書

(2014年4月1日～
2015年3月31日)

勘定科目		2014年度決算	2014年度予算
事業活動による収支	収入		
	その他の事業収入	1,036,000	1,060,000
	その他の収入	426,000	463,000
	経常経費寄附金収入	4,718,441	4,400,000
	受取利息配当金収入	4,070	3,000
	その他の収入	1,467,937	1,300,000
	事業活動収入計(1)	7,652,448	7,226,000
	支出		
	人件費支出	2,800,785	2,809,000
	事業費支出	14,441,813	1,554,000
事務費支出	1,396,698	1,492,000	
事業活動支出計(2)	5,639,296	5,855,000	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	2,013,152	1,371,000	
施設整備等による収支	収入		
	施設整備等収入計(4)		
	支出		
	固定資産取得支出	257,904	266,000
施設整備等支出計(5)	257,904	266,000	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	▲257,904	▲266,000	
その他の活動による収支	収入		
	その他の活動による収入計(7)		
	支出		
	積立資産支出	1,000,000	1,000,000
その他の活動による支出計(8)	1,000,000	1,000,000	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	▲1,000,000	▲1,000,000	
予備費支出(10)		105,000	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	755,248		
前期末支払資金残高(12)	6,035,610	5,615,504	
当期末支払資金残高(11)+(12)	6,790,858	5,615,504	

2014年度 貸借対照表 (2015年3月31日現在)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	6,885,606	流動負債	94,748
固定資産	15,179,246	負債の部 合計	94,748
基本財産	11,554,565	純資産の部	
その他の固定資産	3,624,681	基本金	11,554,565
		その他の積立金	1,000,000
		次期繰越活動増減差額	9,415,539
		純資産の部 合計	21,970,104
資産の部 合計	22,064,852	負債及び純資産の部 合計	22,064,852

監査報告書

社会福祉法人愛媛いのちの電話における、平成26年度(2014年4月1日から2015年3月31日までの会計年度)における貸借対照表ならびに収支決算報告書、財産目録及び業務について監査を実施したところ、事業の運営及び会計上、適法・正確に処理されているものと認めましたので報告します。

平成27(2015)年 5月 7日

社会福祉法人 愛媛いのちの電話

監事 近谷 猛

社会福祉法人 愛媛いのちの電話

監事 星加 修

平成27(2015)年度 事業計画 (2015年4月1日～2016年3月31日)

1、理事会・評議員会の開催

- 5月 理事会・評議員会
26年度決算、事業報告
- 12月 理事会
27年度上半期事業報告
- 3月 理事会・評議員会
27年度補正予算、28年度事業計画および予算

2、相談事業

- 電話相談 相談時間10時間（毎日12時～22時）
月初め10日間は（12時～翌朝6時）
転送受信（新居浜） 毎月3回
- インターネット相談：毎月2日の実施

3、電話相談員の養成と研修

- 電話相談員養成講座
 - 第34期 前年度よりの継続
4月～9月まで電話相談実習 20名
 - 第35期 傾聴スキルアップセミナー
前期公開講座 全5回 5/9(土)～
後期養成講座 全27回 9月～3月
(1泊2日の宿泊研修を含む)
- 現相談員のグループ別継続研修（月1回）
 - 継続グループ数 9グループ
(1年目のわかば2年目の青葉を含む)
 - 訓練委員 7名
大久保雅代、武井義定、平林茂代、
横田和子、野口理英子、名智咲子
新訓練委員に青野篤子氏
- インターネット相談
 - 相談員の継続研修 担当：野口理英子、横田和子

4、開局30周年記念行事

- 記念誌の発行 その他
- 記念式典と記念行事
9月13日(日) 市民会館中ホール
- 懇親会 9月13日(日) 道後温泉大和屋本店

5、一般社団法人「日本ののちの電話連盟」
他センターとの連携

- 厚生労働省補助事業フリーダイヤル
自殺予防いのちの電話に参加
 - 毎月10日午前8時～翌朝8時（24時間）
 - 公開講座 2016年2月に開催予定 講師未定
- 会議と大会
 - 6/4 社員総会（東京）
 - 6/17～18 第3回中四国事務局会議（広島）
 - 7/5～7 事務局長会議（東京）
 - 10/16～18 第33回いのちの電話相談員全国大会
鹿児島大会

6、運営組織の拡充

- 運営会議の開催（月1回）
各委員会の連絡、諸行事の企画・実施
- 各委員会活動（月1回）
相談、財務、広報、事業、統計、研修企画
開局30周年記念行事実行委員会
- 内部報「なかま」の発行（毎月）
- 外報誌「愛媛いのちの電話」の発行及び発送（年2回）
- ホームページの更新、その他の広報活動
- 後援会との連携

7、愛媛県諸機関および松山市との連携

- 愛媛県自殺予防対策協議会、
愛媛県被害者支援連絡協議会への参加
- 松山市自殺対策関係機関連絡会、
松山市自殺対策推進委員会への参加
- 愛媛県教育委員会「いじめ相談ダイヤル24」
- 愛媛県三浦保「愛基金」への申請

8、その他

- 年賀寄付金配分 活動・チャレンジプログラムに申請
- コープえひめ 福祉活動基金助成事業に申請

2015年度 予算

		勘定科目	金額
事業活動による収支	収	補助金事業収入	0
		会費収入	450,000
		経常経費寄付金収入	5,560,000
		受取利息配当金収入	3,000
		雑収入	600,000
		事業活動収入計	6,613,000
	支	人件費	2,869,000
		事業費	1,350,000
		事務費	3,294,000
		事業活動支出計	7,513,000
		事業活動資金収支差額	▲900,000
その他の活動による収支	収	積立資金取崩収入	1,000,000
		その他の活動による収入計	1,000,000
	支	積立資産支出	0
		その他の活動による支出計	0
			その他の活動資金収支差額
		予備費	100,000
		当期資金収支差額計 合計	0
		【資金残高】	
		前期末支払資金残高	5,615,504
		当期末支払資金残高	5,615,504



開局30周年 記念行事のご案内

～歩み止めずに 30年
これまでも・これからも～

記念式典&夏井いつきの句会ライブ 俳句で感じるいのち

講師 夏井いつき氏
(俳人・エッセイスト)

日時 2015年9月13日(日)

14:00～16:30

会場 松山市民会館 中ホール

入場
無料

愛媛いのちの電話後援会
チャリティーコンサート

松山バッハ合唱団 第45回定期演奏会

日時 2016年1月24日(日)

15:30～(入場料未定)

会場 松山市民会館 中ホール

いのちの電話とは……

「いのちの電話」は、孤独の中にあって、時には精神的危機に直面し、助けてと励ましを求めている一人ひとりと“電話”を通して耳を傾け、勇気を持って生きていけるように支援する電話相談ボランティアです。その活動は、現在40ヶ国以上に広がり、国際緊急電話援助連盟(本部ジュネーブ)も設立されています。日本では「日本いのちの電話連盟」に加盟する50センター7分室で約7,000名の電話相談員が活動しています。この活動は、特定の思想・宗教に拘束されない相互援助の善意の人々の活動として広がっています。「愛媛いのちの電話」は1985年に相談活動を開始し、2004年4月社会福祉法人となりました。又、2013年1月より、「インターネット相談」を開始し、2015年開局30周年を迎えました。

編集後記

今年は開局30周年ということもあり、思い切って表紙の雰囲気を変えてみました。「30周年の特別な雰囲気を出したい」と単純な動機でしたが、「大切なこと」「伝えたいこと」の本質を考えるよい機会になりました。誌面でもご案内しておりますが、夏井いつきさんの句会ライブを開催いたします。皆さまに楽しんでいただけるよう、実行委員会が奮闘中です。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。(K.I)



ホームページ <http://www.find-j.jp/>

発行 社会福祉法人 愛媛いのちの電話
発行者 武井義定
編集 広報委員会
事務局 〒790-8691
日本郵便株式会社
松山中央郵便局私書箱158号
TEL (089) 958-2000
FAX (089) 958-2014
<http://homepage2.nifty.com/find-ehime/>